

認知症対応型 AI・IoT システム研究推進事業
事後評価結果

研究開発課題名	BPSD予測・予防により介護負担を軽減する認知症対応型AI・IoTサービスの開発と実装
研究代表者氏名(所属)	山口 晴保(社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)
研究開発期間	令和2年4月～令和5年3月

【評価コメント】

本研究開発では、世界的にも未試行の段階において、認知症分野でAIを活用する研究が実施された。IoTデータ等を解析して複雑なBPSDの予測AIモデルを構築する試みを通して、認知症を有する高齢者・患者と介護者の双方にとり有益な介護負担軽減システム構築の可能性を示唆したことは評価できる。

また、計画の一部は未達であったものの、IoTデータ基盤、BPSD予測AIモデル、BPSDケアのための知識ベースが構築された。コロナ禍の影響を受けつつも、実証実験を実施し、その成果を社会実装するためビジネスパートナーとの提携を調整し、一部機能については上市され企業とも業務提携されたことは評価できる。

一方、現時点では、BPSDの発症を高い精度で予測し、それに対処・介入することで介護負担を軽減する効果のエビデンスは示されておらず、成果の社会還元は十分とは言えない。今後、予測すべきあるいは予測可能なBPSDやAI解析の対象データセットの絞り込みを進めるなどシステムの改良と社会での一層の実践、加えて、知見の共有が期待される。